

青少年育成ひろしま情報誌

# はくくむ

はくくもう。子どもも、私も。



特集

子どもの健やかな  
新生活づくり、スタート!!  
インタビュー記事  
上田 宗岡会長

●県民運動のコミュニティ  
●研究者や育成指導者の寄稿  
(原立広島大学)

2008.3  
創刊号  
vol.1



社団法人 青少年育成広島県民会議

# 大きく育て



# 子どもたち！

「今の子どもたちには、創造力が欠けている」といわれますがどうでしょうか？ 創造する力は、自ら体験をし、成功したときの感動から生まれます。また、たとえ失敗したとしてもその体験が、きっと次へのチャレンジの原動力になります。その力を生み出す環境の整備は、私たち大人の役目です。「自分は忙しくてできないが、誰かがやってくれるのでは？」ではなく、できることから始めてみましょう。今日から「おはようございます」のあいさつでスタートです。

# はぐくむ

2008.3  
創刊号  
vol.1

## Contents

### 02 特集／子どもの健やかな新生活づくり、スタート!

インタビュー

(社) 青少年育成広島県民会議

#### 上田 宗尙会長

「新しい出会いに、大切なのはあいさつです」

県民運動紹介

「あいさつ・声かけ運動」／08

「明るい家庭の日運動」／09

### 10 いきいき地域活動

東広島市青少年問題協議会「家族そろって夕食キャンペーン」

### 12 県民運動フラッシュ

### 14 市町民会議の活動紹介

### 16 青少年育成三次市民会議の調査研究報告

### 17 エッセイ

県立広島大学・赤岡功学長

本の紹介「日々ごゆだんなきよう」

### 18 研究者や育成指導者の寄稿(県立広島大学)

子どもの「脳」の育ちと環境

林 優子

思春期の若者の理解と対応

藏本 美代子

フランスの子育て事情

都留 民子

学童期のメンタル・ヘルスに関する調査結果 西村 いづみ



はぐくむ vol.1

2008年3月31日発行

発行人／社団法人 青少年育成広島県民会議

企画・編集／社団法人 青少年育成広島県民会議

〒730-8511 広島市中区基町10-52 広島県民活動課内

TEL:082-513-2742 FAX:082-511-2173

URL: <http://www.hiro-payd.or.jp>

協力／県立広島大学

編集協力／東広島リビング新聞社

印刷／株式会社インパルスコーポレーション



# 子どもの健やかな

# 新生活づくり、スタート!

入園、入学、進級、と子どもたちにとって

新しい生活が始まる春。

今回は、青少年育成ひろしま情報誌

「はぐくむ」創刊の特別企画として、

(社)青少年育成広島県民会議・

上田宗岡会長のインタビューをお届けします。

聞き手は、県立広島大学人間福祉学科の

細羽竜也講師、西村いづみ助教です。



## 基本的な生活習慣について

—西村 著書「日々ごゆだんなきょう」の中で、立ち居振る舞いやマナーなど青年の育成にヒントとなることをたくさん語っておられます。子どもたちが入学など新しい生活をスタートするにあたって何が大切だと思われませんか。

—上田 新しい出会いをしたり、早く

みんなと心を通わせたりするために、大切なのはあいさつです。あいさつは、実は一番自分の気持ちが相手に伝わりやすい言葉です。慣用句ほど自分の感情が出やすいものではありません。「おはようございます」「ありがとうございます」という言葉は、100人いれば100通りもの伝わり方をします。その日の、その時の状況が一人一人違いますからね。

## 新しい出会いに、大切なのはあいさつです。

(社)青少年育成広島県民会議 会長  
上田 宗岡

1945年6月20日、広島市生まれ

茶道上田宗箇流家元 (財)広島市文化財団理事

(社)日本工芸会特別会員 など



昔と違って大家族が少なくなっている今、日常生活の中で言葉を交わさず、顔だけ見れば分かるような極めて密接なスキンシップの関係が強くなり、声を発さない状況がどうしても増えていきます。自分の心を伝えるのは態度と声、言葉です。書くか、しゃべるか、あるいは動くか、これしか人間には発表のしようがない訳です。家ではほとんどあいさつもしていない子どもが、急に社会に出てもうまくできないのはそういうわけです。声を出さなければ分からないですからね。

日常の中で、自分の心を伝える言葉を繰り返し使い、自然に出せる子どもは、外に出ても苦労しません。

### 大切なのは声に出すこと 体で表現すること

まずは慣用句を声に出して話すことです。それから、いつも使っている慣用句を通して、お互いのことを少しでも理解し合うこと。そうすることで初めて、創造的で、クリエイティブな言葉が伝わるのです。声には魂がありますからね。その時の心が言葉に出るわけです。これはとても大事なことです。

今回、インタビューをした県立広島大学人間福祉学科・細羽竜也講師(写真左)と西村いつみ助教



あと大切なのは、体の動き。この人は心から私に接してくれているなあというの、視線の温かさや、お互いに話しやすい距離など、日々の動きの中で感じることが出来ます。それがちゃんとできている人は、みんなから「あの人はいいねえ」と言われるように感じます。言葉、慣用句を大事にすること、コミュニケーションを含めて体の動きを意識すること、これを日常の中で実行することを勧めます。

### 気を落ち着かせる

—西村 親が意識して子どもに働きかけることが大事なのです。

—上田 子どもは教えれば、あいさつなどはすぐできます。子ども以上に今は大人がいけませんね。おそらく日本の大人が、これだけ心の伝え方が下手なのは、有史以来、初めてかもしれない。

この数十年、日本人は、「座」から「腰掛け」に移って、ある意味、中途半端になっているから、みんな所作ができないのです。正座ではなくても、お尻を下につめさすこと、それを意識してやること、がすごく大事だと思います。「腰掛け」よりも「座」の方が、精神の安定が深いからです。

例えば、家の中でも親が、「ちよつと座ってお母さんと話してみようよ」「ゆっくり話してごらん、そうしたら気持ちがいいよ」と言ってみてください。そうすれば、子どもはすごく安定してきます。帰宅した子どもにも「今日どうだった?」という時も、できたら一緒に床や畳に座

って話を聞いてやるといいですね。親や学校が「座」における空間を少し意識してつくってやる。一日にそれこそ30分でも15分でもいいですから。それによって気持ちをすっと落ち着かせることができます。日常の家庭の中では、「お互いのひと呼吸」がとても大事です。

### 心の安定に 「座」は有効

よく五感を磨きましようと言われるですよ。創造力は、目、耳、鼻、口、聴覚を含めて五感を磨くことによつて高まります。そうすると精神も高まってくるわけです。つまり、私たちが感じるのは、みんな胸から上なのです。

実際に息を吐いてみますね。ふーっ……。今、30秒ぐらいだったと思いますが、この呼吸が深ければ深いほど少々な事では動じません。精神がびたつと止まり、心を落ち着かせることができるという点でも「座」は有効なのです。

## あいさつは、実は一番 自分の気持ち伝わりやすい言葉

「ちょっと座ってお母さんと話してみようよ」と言ってみてください。そうすれば、子どもはずいぶん安定してきます。



## 今の子どもと昔の子ども

自然を謳歌することで豊かな感性がはぐくまれる

—西村 会長の子どもの時代と比べると、最近の子どもたちを取り巻く環境や文化も変わってきました。今の子ども

たちに伝えていきたい、会長ご自身の子どもの時代の文化を教えてください。

—上田 今は子どもが少ないのもありますが、小学校や中学校の子どもの家の中に閉じこもって遊んでいることが多い。私たちの時代は、常に外に出て、暗くなるまで遊んでいました。特に日本は、世界に名だたる、春夏秋冬がきれいな

国です。私たちがこれだけ感性が豊かなのは、自然の変化を体で感じてきたおかげですからね。

ところが今、ライフスタイルの変化により、床の間がある家は広島で4割ぐらい。畳のない生活も増えつつあります。かといって、外では子どもにとって危険な状況が多くなっているでしょう。そこ

が非常に難しい。私の考えですが、やっぱり子どもは外に出て、暗くなるまで帰ってこないくらい自然を謳歌（おうか）しないと、日本人の持っている感性の素晴らしさが若干鈍る気がします。何より、親が日常の中で春夏秋冬を意識して取り入れてやらなければいけない時代になりましたね。



—西村 自然から春夏秋冬に触れる機会が減ってきている子どもたちの現状がよく分かりました。会長と子どもたちが直接交流される機会もあると思いますが、元気さとコミュニケーション力という点で、今の子どもたちのことをどのように感じていらっしゃいますか。

—上田 子どもはどの時代も変わらないですよ。少なくとも小学校ぐらいまでの子どもは、感受性豊かで元気ですしね。

ただし、アフリカなどに住む、生存するのが精いっぱいという子どもたちの目は違いますよね。星のようにキラキラと輝いています。生きようとしている目で



—細羽 ある調査によると、週に3日ぐらい塾に通っている子どももいて、親子の活動を支援するような地域活動の日を設定しようとしても、すべてのお子さんが空いている日がないのが現状です。

—上田 皆さん、わが子をすごく優秀にしたいと思っているでしょう。こういう仕事をしていて確信を持って言えるのは、飛び抜けた才能を持っている人は10万人に1人ぐらいしかいないということです。だから子どもにいろいろな習い事をさせないことです。何か一つでいいんです。子どもが興味を持ったものなら。

### 親の役割

すからね。

そういったものは当然、私たち日本人には少ないので比べることはできませんが、どんな状況の中でも、子ども自身が自分の内面を輝かせていく努力が大切だと思います。スポーツをしたり、お茶を習ったり、何かに集中することによって人間が深くなり、目の輝きも違ってくるからです。それには、子ども自身が「したい」ということを一生懸命させる手伝いを親が必要があるのではないのでしょうか。

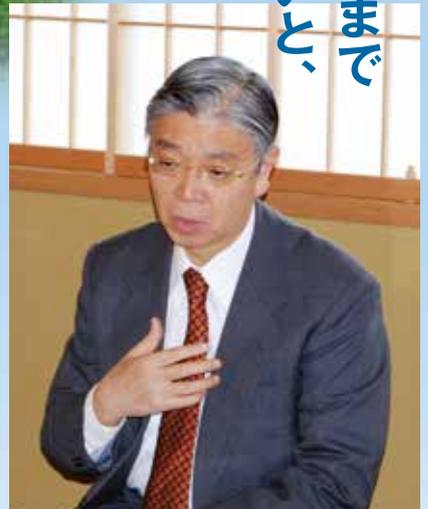


今回、インタビューを行った場所  
**上田流和風堂**  
(広島市西区古江東町)

茶道上田宗箇流宗家の茶室。江戸時代、広島城内にあった上田家上屋敷を当時のイメージで再現する改修がされ、今年、初めての正月行事「初釜」が、新たに造作された武家茶道独特の「鎖の間(炉を切り鎖で釜をつた部屋)」で行われました。上田会長(財)上田流和風堂・理事長を務めています。



やっぱり子どもは外に出て、暗くなるまで帰ってこないくらい自然を謳歌しないと、日本人の持っている感性の素晴らしさが若干鈍る気がします。



### 子どもは怒らず ほめてやる

いずれ自立するわけです。親が、その自立を妨げちゃいけないですよね。  
子どもは自分とは別の人格であり、互いに自立した存在だという認識がとても大切ではないでしょうか。むしろ子どもを怒らずに、ほめてやる。そして、親は日々を一生懸命生きる。その方が絶対良い子に育つと思います。

— 細羽 子どもの将来に不安を感じている親が多いのでしょうか。私がいる県立広島大学にも時々、どういう教育をしたらいいのか…という親からの問い合わせがあります。会長が言われるように、まず親がどつしりと落ち着いていたら、子どもはそれを見て、安定もするし自信が持てるかもしれませんね。

— 上田 子どもはいずれ自立するんだという自覚が親には一番大事なのではないでしょうか。今の親は子どもへの密着が強すぎるように感じます。家の中でもどこかに厳然とした、一線は保つべきです。子どもは親にとつてかけがえのないものであることは間違いないですが、

私の場合、わが子に対して怒鳴りついたりなんかしません。人格を認めているからです。「あなたがもし犯罪に手を染めたら、責任は親に降りかかってくるんだよ。二十歳までは、いけないものはいけない」とはっきり子どもに伝えています。それから携帯電話も、高校卒業まで持たせませんでした。心を妨げ、不安定にさせるだけです。その上で、もし子どもが危ない目に遭いそうになったら、身を代えても守るんだという親の覚悟もほしいですね。そんな姿を見て「ああ、お父さん、お母さんは絶対僕たちを守ってくれる」と安心する。これもやっぱり大事ですからね。

— 細羽 終わりに、著書の中で勧めておられる「家族の歳時」について、教えてください。

— 上田 春夏秋冬の日本の歳時、いわゆるお正月、おひなさま、七夕、五月五日、菊の節句といった五節句ですね。そういう歳事の時、親が家族のために無事を祈ったり、季節の中で自然に対して感謝したり、子どもの無事を祈る親の姿を見ることが大切なのです。

子どもはそれを一緒に手伝うことで、お父さんやお母さんよりももっと崇高な人がいるんだなと感じる。それは、自然かもしれないですね。お父さんやお母さんが一番偉いんじゃない、もっと何か、私たちを見つけてくれる人がいることを教えるために、日本の場合はこの家族の歳時がとても大事です。

— 西村 私も子育て中なので、今日は大変勉強になりました。

— 上田 そうですか。お仕事と育児の両方で大変でしょうね。だけど逆に両方も集中してできるかもしれませんね。子どももそんな姿を見て、「ああ、お母さん、すごく頑張ってくれているから自分も頑張らなければ」という無言の教育になっているでしょう。ぜひ頑張ってくださいね。

(社) 青少年育成広島県民会議は  
こんなことに  
取り組んでいます。



家庭を健全にするための活動

- 「あいさつ・声かけ運動」の輪が広がるように、子どもの見守り活動などとも連携して啓発活動を行っています。
- 「家庭の日」(毎月第3日曜日)の図画、ポスター、作文の募集、表彰をしています。
- 「青少年の日」(毎月17日)の運動を推進しています。
- 広報活動を実施しています。  
・機関紙「せとのあさ」の発行

青少年を見守り育てる活動

- 青少年育成地域リーダーを委嘱して、社会環境や青少年活動に関するモニター調査などを実施しています。
- 「ゆーすふるサンデー」(7月第3日曜日)を、大人と子どもが触れ合うきっかけづくりの日として推進しています。

青少年を支える人づくり

- 地域における青少年育成の核となる指導者や協力者づくりを進めるため、青少年育成カレッジ講座や保護者を対象とした市民講座を開催しています。

青少年が、その誇りと責任について自覚を高めるための活動

- 「夢配達人プロジェクト推進事業」は、平成19年度に子どもたちから募集し、選考された8つの夢の実現に向けて、地域の人と夢配達人が一緒になって取り組み、支援しています。
- 「少年の主張」広島県大会を開催しています。
- 青少年の国際交流事業を支援しています。

青少年団体、青少年育成団体および市町民会議の活動支援

- 地域の県民運動活動費を助成しています。
- 青少年育成活動指導者を派遣しています。
- 優れた功績のある育成功労者などを表彰しています。



県民運動紹介①

みんなを始めよう!

「あいさつ・声かけ運動」



「おはよう」「こんにちは」「ごつごつしゃべり」。  
あいさつは、人と人をつなぐ  
コミュニケーションの第二歩です。  
家庭で、学校で、地域で、あいさつを交わすことで  
心が和み、明るい気持ちになります。

♪あいさつ声かけソング♪できました

あいさつ・声かけ運動を推進するためのCDを作成しました。ホームページから無料ダウンロードできます。



【みんなの笑顔が宝物】

作詞／(社)青少年育成広島県民会議 作曲／魚住 恵

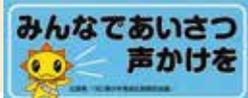
- |   |   |
|---|---|
| 1. おはよ (おはよ)<br>行ってらっしゃい (行ってきませーす)<br>おはよ (おはよ)<br>みんながニコニコワクワク<br>みんなの笑顔が宝物   | みんなの元気がキラキラ<br>3. おかえり (ただいま)<br>きょうもいいことあったかな?<br>おかえり (ただいま)<br>みんながニコニコワクワク<br>みんなの笑顔が宝物 |
| おはよ (おはよ)<br>行ってらっしゃい (行ってきませーす)<br>おはよ (おはよ)<br>みんなの笑顔がピッカピカ                   | みんなの笑顔が宝物<br>おやすみ (おやすみ)<br>あーしたもいことあるように<br>おやすみ (おやすみ)<br>みんなの笑顔がホッカホカ                    |
| 2. こんにちは (こんにちは)<br>元気かな? (げんきです)<br>こんにちは (こんにちは)<br>みんながニコニコワクワク<br>みんなの元気が宝物 | 2. こんにちは (こんにちは)<br>元気かな? (げんきです)<br>こんにちは (こんにちは)<br>みんながニコニコワクワク<br>みんなの元気が宝物             |



広島県の  
青少年の  
マスコット  
ゆっぴー

ステッカー・シールの無料配布

マスコットキャラクター・ゆっぴーが「あいさつ・声かけ」を呼びかけるステッカーとシールができました。地域で活用していただくため、無料で配布しています。



皆さんの声が原動力!

家庭では

- 生活習慣の中であいさつ・声かけを「おはよう」「おやすみ」「いただきます」「ごちそうさま」「行ってきます」「いってらっしゃい」
- 家族そろって食卓を囲みましょう  
食卓を囲んでの会話から、子どもの変化が感じられます

学校では

- 登下校時、学校内であいさつ・声かけを通学路、校門、ホームルームなど
- 保護者に対しても啓発活動を活発に  
通信文、保護者会などを活用して

事業所では

- 事業所内でのあいさつ・声かけを
- 店内・店頭でも声かけを強化  
「いらっしゃい」「おかえり」「今日は早いね」「早く家に帰ろう」

市町村では

- 市町村役場内などであいさつを
- 広報誌・会議・集会などでも呼び掛けて
- 関係機関・団体への協力要請

地域では

- 地域住民が集い、声が掛け合える場づくりをしましょう  
町内会行事、子ども会行事などへの積極的参加の呼びかけ
- 登下校時のあいさつ・声かけを
- 町内会などの広報誌紙で呼び掛けて



見守られている安心感  
次代を担う子どもたちが健やかに育つためには、大人たちに見守られているという安心感を持たせることが重要です。ちょっとしたあいさつ・声かけが青少年の非行防止、健全育成につながります。子どもの健やかな成長を願って、気持ちの良いあいさつを始めませんか。

県民運動紹介②

毎月第3日曜日は

「明るくい家庭の日運動」



青少年育成広島県民会議では、毎月第3日曜日を「家庭の日」と定め、家族みんなの心が通い合う明るい家庭づくりに取り組んでいます。

家族団らんのための「家庭の日」が日本で初めて産声を上げたのは1955年。家庭を大切にしたい、と鹿児島県鶴田町で生まれ、市民運動へと盛り上がりました。

家庭は、人が生まれ育てられる基本的な生活の場所。また社会を形成する基本的なコミュニティです。親子が愛情と信頼の絆(きずな)で結ばれ、健全な家庭生活が送れるということは、社会全体にとっても大切に意義深いものです。

「家庭の日」には、ぜひ家族そろって楽しい時間を過ごしましょう。

平成19年度「家庭の日」に関する図画入賞作品 (学年は当時。敬称略)



特選1点

大崎上島町立西野小学校  
1年 片岡 俊哉  
(かたおか としや)

夏休みに 家族といっしょでわた菓子を作った絵。

特選者は、昨年11月に広島県民文化センターで行われた青少年育成県民運動推進大会で広島県知事表彰を受けました



入選5点

広島市立伴小学校  
6年 森兼 将太 (もりかね しょうた)  
家族といっしょに 楽しい夏休みを すごしました。



広島市立八木小学校  
5年 木村 考岐 (きむら こうぎ)  
「はーい、お茶」 いつでも仲良し家族だね。



広島市立古市小学校  
1年 久末 夏生 (ひさすえ なつみ)  
マンションの とんだりどうして なかよしかぞく。



熊野町立熊野第四小学校  
5年 西村 美緒 (にしむら みお)  
家族で ハウステンボスに行きました。



福山市立東朋中学校  
1年 新山 歩未 (にいやま あゆみ)  
食卓を囲んで 何でも話せる 私の家族。

「家庭の日」には

- テレビを消して家族で話し合しましょう  
学校や遊びのこと、家庭のルールのことなど
- 家族で文化・スポーツに親しみましょう  
スポーツ観戦、読書など
- 家族で地域との交流を深めましょう  
お祭り、清掃、ボランティアなど
- 家族で食事を一緒にしましょう  
家族みんなで料理の分担を

# 「家族そろって夕食キャンペーン」

東広島市青少年問題協議会からのいきいき活動報告



## 家族で話す。なんだかうれしい

東広島市が昨年11月に実施した「家族そろって夕食キャンペーン」期間中、514家族（2225人）が参加しました。食事を通して家族のきずなを深めてほしい、と願って行われたこのキャンペーン。どんな効果があったかを報告します。

「家族そろって夕食キャンペーン」は、東広島市が「夢と志を持ち、たくましく生きる青少年」を育てるため昨年初めて策定した「東広島青少年自立プラン」重点施策の一つとして東広島市青少年問題協議会（会長・藏田義雄市長、事務局・東広島市教育委員会青少年育成課）が始めました。家族が食事を通して楽しくだんらんし、きずなを深めながら、温かい家庭づくりを推進するのが目的です。

参加家族は、まずそれぞれ1カ月間の目標を設定し、その達成状況を報告用紙に記入して提出。「夕食を週〇回みんなで食べる」だけに限らず、「朝食」に変える、「テレビを消す」「お手伝いをする」「たくさん話をする」などそれぞれの家族の状況に合った目標を立て、家族ぐるみで取り組みました。参加した全家族には、記念品と賞状が贈られています。

報告用紙には、感想や食事のエピソードも記入してもらいました。「たくさん話ができ、ごはんがおいしく感じました」「家族で過ごす夕食は私の宝になりました」という子どもたち。保護

### 木村清教育長の話

「このキャンペーンをきっかけに、家族のコミュニケーションを見つめ直したり、家族のきずなを深め合ったりする様子が伝わってきて感動しました。子どもたちのために、来年度はこのキャンペーンをさらに充実させていきたいと思っています」

者からも「家族が一つになった気がします」「いままでただ食べれば良いと思っていましたが、考え直す必要があると感じました」と、家族や食事のあり方を見直す感想が寄せられました。

### 来年度は2000家族の参加が目標

青少年育成課では「家庭状況がさまざまな中、それぞれに工夫して取り組んだことがうかがえます。肯定的な意見が多く、効果を実感」とする一方、「参加家族数が伸び悩んだ」との課題もありました。

来年度は2000家族の参加を目標にし、開催時期や広報活動、協力体制を見直す検討を始め、「問題行動を未然に防ぐためにも、全市的な取り組みに発展させたい」としています。

## 学年挙げて取り組んだ 西志和小学校5年生

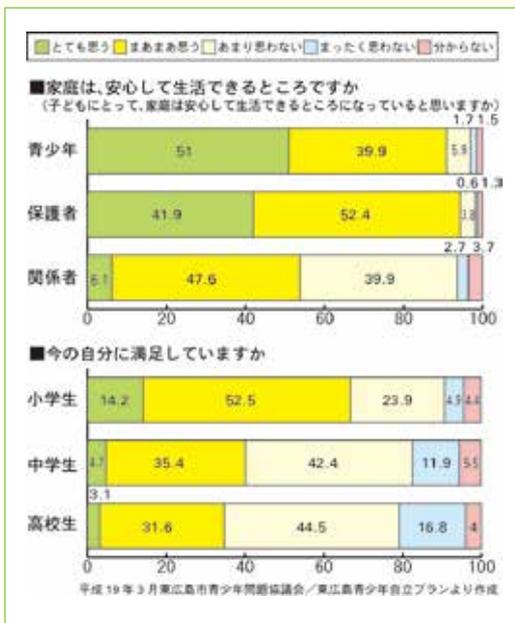
西志和小学校の参加のきっかけは、「学んだ事を生活の中で実践してほしいと考えていたところにこのキャンペーンが目にとまり、家庭科の学習として」（家庭科・福岡博子教諭）でした。家



家庭科の調理実習

族の協力が得られるかが心配されましたが、参観日や配布物を通して呼びかけて全員が参加することになりました。やつてみて驚いたのは「子ども自身が行動を起こす」という事。進んで食事を作る、自ら話題を出して食事を楽しむ

「うれしかった」「家族で話をするとなぜかうれしくなります」と、子どもたちは家族で過ごす時間を本当に喜んでいました。保護者からも、「良いとは思っていたもなかなかできないでいた。やればできるのだと思いました」「続けていきたい」という感想。



「何とかしなくてはという気持ちはあっても、生活を変えるのは難しい。保護者はそのきっかけを待っていたのでは」と福岡教諭。「子どもを大切に育てたいと思い、子どもたちはそれを実感できたのでしょうか。予想以上、期待以上の効果があったと思います」と評価しています。

## 予想以上、期待以上の効果

もうとしている姿。そして、高校生や大学生など生活時間が合いにいきようだいや、近くに住む祖父母も巻き込む様子でした。「けんかをした、と言ったらちゃんと注意してくれた」「いつも朝しかいないお父さんが夜もいたようです。」

平成19年度、同校では食教育に力を入れ、教科、総合的学習、給食などさまざまな時間に、また栄養専門員による指導も含めて取り組んできました。特に5年生は、家庭科の調理実習でみそ汁作りを行い、その体験を保護者や地域にプレゼンテーションする学習なども実施しました。こうした学習がうまくこのキャンペーンにリンクし、子どもたちのやる気と保護者の理解・協力につながったのかもしれない。



プレゼンテーションの様子

福岡教諭は、「キャンペーンはそれぞれの家庭で家族や食について見直すきっかけになったと同時に、学校としても改めてその役割を考える機会になりました」と話していました。家族そろって食事。別に特別なこと

### メモ 家族そろって夕食キャンペーンとは

東広島市が、子どもたちの自立に向けて今後10年間に取るべき施策を示した行動計画「東広島市青少年自立プラン」の重要施策の一つ。東広島市教育委員会が平成18年1月に実施した「東広島市の青少年に関するアンケート」で「家族とうまく対話ができない」が、中学生で約17%、高校生で約20%あったことなどから、家族のだんらんを通じて不安や悩みを解消するのを狙って実施。同プランでは、平成28年度数値目標を「目標達成率70%」に置いています。

から)

## 世界の友と夢を語ろう

海外の青少年を招き、県内各地で日本の文化や生活習慣に触れてもらうことを目的に行われた「国際交流ユース in HIROSHIMA」(平成19年7月23日～8月1日開催)。



交流会ではお茶の作法にも触れてもらった

## 中学生の今を主張

第29回「少年の主張」広島県大会・第41回中学生話し方広島大会を平成19年9月23日、エソール広島(広島市中区富士見町)で開催。県内39校から1318編の応募があり、その中から原稿審査を通過した37人がそれぞれの主張を力強く発表しました。



広島清流ライオンズクラブ会長賞を受賞した  
寺西修二くん(広島県立広島中央特別支援学校2年=当時)



熱心に聞き入る受講生

## 全国初!の試み

県立広島大学(広島市南区宇品東)と青少年育成広島県民会議は平成19年10月16日、「包括協定調印式」を広島県庁で行いました。地域リーダーの養成を狙いに、「青少年育成カレッジ」の開



協定書を交わし握手する赤岡学長と上田会長(右)

催など青少年の育成を通じて地域貢献を図るのが目的。大学と青少年団体による協定締結は全国初の試みです。

## 県民運動

# Flash

青少年育成広島県民会議が行った活動をご紹介します。

## 子どもたちの心と行動を学ぶ

平成20年3月16日、県立広島大学広島キャンパス(広島市南区宇品東)で「青少年育成カレッジ・第2回総合講座(冬季講座)」を開催。県内各地から約70人が集まり、さまざまな内容の講義を受講しました。



県立広島大学・赤岡功学長の記念講演(第1回総合講座)の様子

## 若者の心に響く大会

平成19年11月7日、広島県民文化センター（広島市中区大手町）で「平成19年度青少年育成県民運動推進大会」を開催。青少年育成に携わる関係者ら約350人が集まり、表彰式・記念講演・フォーラム・ポスターセッションなどを行いました。



表彰を行う藤田雄山広島県知事

## 子育てを地域が応援！

平成19年度市町民会議活性化セミナー「みんなで支える子育てシンポジウム」を平成20年3月2日、県立広島大学三原キャンパス（三原市学園町）で開催しました。



シンポジウムの様子

## あなたの夢をかなえます

広島県内の小学生から夢を募集し、地域の人たちが「夢配達人」（専門家など）と一緒に実現させる「夢配達人プロジェクト推進事業」。1820件の応募の中から8つの夢に決定し、現在、実現に向けた準備を進めています。

### ◎町を舞台にした絵本を、みんなで作ります！

〈神石高原町・二幸小学校2年生、3年生〉

神石高原町を舞台にした絵本を作成し、昨年の不審火で不安になった町を少しでも明るくしたい。そんな思いを夢に託し、平成19年11月19日に取材を開始しました。



地元農家からハチを利用したトマト栽培について説明を聞く

### ◎校庭に『ピオトープ・ドリーム』を作りたい！

〈世羅町・中央小学校4年生〉

世羅地区に生息する川魚・タモロコなどを保護するため、校庭に『ピオトープ・ドリーム』を作りたい…そんな思いを実現するため、平成19年11月13日に庄原備北丘陵公園（庄原市三日市町）を見学しました。



真剣なまなざしで見学する子どもたち



交流会では絵本の読み聞かせも行う

## 街頭でおはようございます！

青少年健全育成強調月間の11月は、青少年の健全育成を目的としたさまざまな事業が実施されます。通年行われている「あいさつ・声かけ運動」も、この強調月間は規模を拡大して県内各地で行われます。



強調月間の初日にはJR広島駅前であいさつ・声かけを実施

# とくめきまき が いっぱい!



## 1 庄原市

夏休み子ども自然体験「今櫛山(いまぐし)やま探検に行こう!」で祠(ほこら)を訪ねる



## 1 庄原市

手作りの紙芝居「今櫛伝説」の披露も



## 2 府中市

第27回府中市青少年少女主張大会  
青少年育成府中市民会議



## 2 府中市

家族(親子)ふれあい年賀状づくり教室



## 3 尾道市

一日研修体験



## 3 尾道市

わら細工教室で世代交流



## 5 東広島市

ゆっぴーも一緒にあそぶ  
つ・声かけ運動



## 4 廿日市市

ふれあいキャンプ



活動紹介

# 県内各地の市町民会議

世代を超えた交流、チャレンジ教室、トムソーヤのように自然を満喫するキャンプなど、子どもも大人も一緒に楽しめる、趣向を凝らしたイベントが県内各地で行われています。今回は、広島県内7カ所の市町民会議・推進協議会の活動を紹介します。



7 北広島町

子どもたちはトムソーヤのように元気に遊ばい



7 北広島町

トムソーヤスピリッツ(キャンプ)の参加者



6 東区

東区内のさまざまな地域の人たちが参加



6 東区

街頭啓発パレード



5 東広島市

「おはようー」。駅前でも声かけを実施



青少年育成三次市民会議「キャリア教育に関するアンケート調査」報告

# 「地元は好きだが、いつか地元で生活したいとは思わない」

三次市の青少年育成三次市民会議（竹岡律男会長）が、キャリア教育を視点に置いた「キャリア教育に関するアンケート」の報告書を今年1月にまとめました。子どもも大人も8割が地元は好きだが、いつか地元で生活したいとは思わないと5割が考えているなど、今後の活動指針を見出すための重要なキーワードが見つかりました。

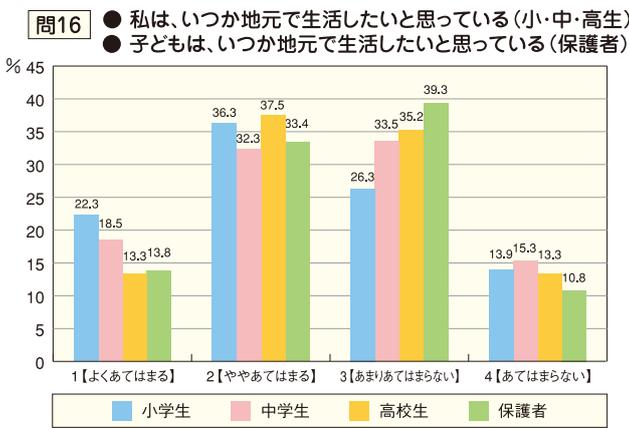
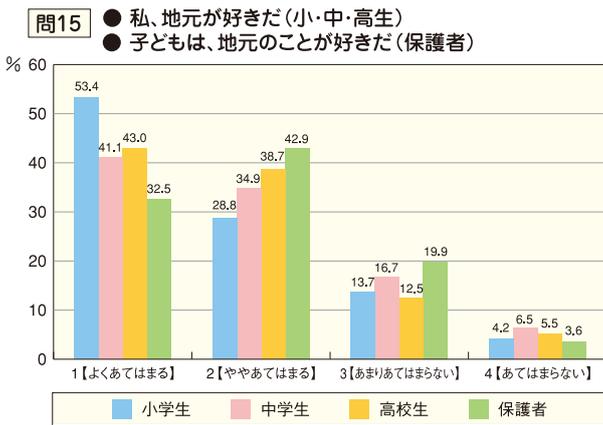
青少年を巡る問題は、自立心や社会性の未発達、親・家庭・地域の教育力の低下、青少年を取り巻く社会環境状況の悪化などさまざま。そこで、こうした状況や社会の変化に適切に対応した育成活動を展開するために、キャリア教育の視点から親と子どもの実態に焦点をあてて調査を実施しました。

と学校そして地域、機関・団体との、より確かな連携を構築し、地域ぐるみの子育てを展開していくのが調査の目的。中学校・高校・保護者ともおおむね同じ質問項目でした。

## 調査から連携実施への具体策探る

この結果から問題の糸口を探り、家庭

注目されるのは、問7「子どもは自分の考えや思いを友達にしっかり伝えられる」、



問9「いろいろな職業について知っている」の質問で、「余りあてはまらない」「あてはまらない」が合わせて5割弱だったこと。コミュニケーション不足、社会性の未熟などの理由が考えられ、職業(仕事)については、小学生は夢を持つ子も多く職業に対しても興味を持つことが伺えるが、中・高校生は余り多くの職業に興味を示しておらず職業観が育っていないと見ることができず。

また、問15「地元が好きだ」、問16「いつか地元で生活したい」の質問では、約8割の子とも大人が、地元が好きと回答して地元への愛着が判明。ただ、地元は好きだが生活したいと思わないとの回答がともに5割あり、地元は好きだが生活していくだけの魅力を感じられない、魅力のある事業所が少ない、地元で仕事をすることが難しいと考えているようです。

報告書では、特に問15と問16を今後の活動指針を見出す重要なキーワードと指摘。そのほかの結果も含めて子どもと心と身体をたくましくすることの大切さ、そのことを家庭や学校だけに任せておくのではなく、地域全体のこととして、子どもの課題に家庭・学校・地域のすべてが一体となって取り組む必要があると訴えています。

## 推進大会で地域や親の役割討論

今回のアンケートを踏まえ、1月26日、三次市・みよしまちづくりセンターで推進大会を開催。「心豊かにたくましく生きる力を育てる」をテーマに、子育てにおける地域や親の役割などを話し合いました。

PTA、学校関係者、青少年育成関係者、人権擁護委員ら110人が参加。パネルディスカッションでは、今回のアンケート結果について、これまでの子育て体験や育成活動や個々の思いも交えて議論。講演では、三次市出身の藤原凡人さん(元府中中央小学校長)が「大人も誇りを持ち、『わしらの姿を見て育ちやあ間違いない』という姿勢で接してほしい」と要望しました。

大会を通してアンケート調査結果を多くの人に見てもらえ、その意味するものを考えてもらえる機会を与えられました。同時に、参加者にはこれからの子どもへの健全育成についての共通認識が芽生えたようでした。

### 調査の概要

- 対象 三次市内の小学校27校の児童、中学校12校と高等学校3校の生徒、それぞれの保護者計3132人。回収率は児童生徒78.7%、保護者72.4%
- 実施期間 2007年11月13日~30日
- 調査方法 学校で児童用・生徒用・保護者用の調査票を児童生徒に配布、学校で回収
- 主な調査項目 ▽児童生徒の実態(生活習慣、将来の夢や目標) ▽保護者の実態(子どもの理解度)※いずれも17問で、児童・生徒・保護者ともおおむね同じ質問
- 実施主体 青少年育成国民運動実践調査研究広島県三次市実施委員会(内閣府、(社)青少年育成国民会議、青少年育成三次市民会議)。青少年育成国民運動実践調査研究事業で、2月25日に東京での合同報告会で報告
- 報告書への問い合わせ 青少年育成三次市民会議(三次市十日市東3丁目14番2号 三次市青少年女性センター内) TEL: 0824(64)2832

# 素晴らしき哉、<sup>かな</sup>広島

文／赤岡功さん



〈プロフィール〉  
県立広島大学理事長・学長

**赤岡 功**

(あかおか いさお)

2005年4月、県立広島大学学長  
就任。現在、公立大学法人県立  
広島大学理事長・学長。  
経済学博士。公立大学協会副会長。  
日本労務学会代表理事。

ある土曜日の早朝、バスで安芸高田市に行きました。毛利氏の郡山城を2時間はかり歩いて山麓(さんろく)へ下り、午前10時ごろ清神社へ。凛(りん)として清涼な清神社はサンフレッチェ広島が戦勝祈願するという場所。その前になると、近くの家から若い女性が出てこられます。その人は「おはようございます」と私に会釈して、庭先の車に乗り込みました。

大変うれしかったのですが、このとき、作家の司馬遼太郎がこの地・吉田を訪れた時の夕刻の話を思い出しました。ほの暗い中、司馬が老舗旅館を出て歩いていると、高林坊を曲がった商店街のところで赤いセーターのお嬢さんと出会ったといいます。彼女は、通り過ぎるとき「おやすみなさいませ」と一礼して、鮎(あゆ)のように去った。そうです。日本の多くの地方ではこのような醇風(じゅんふう)はもうなくなっているが、ここ吉田では残っているのだ、と司馬はその感動を記録しています(『街道をゆく21』(芸備の道、1988年、朝日新聞社刊、41〜42ページ)。それから約20年後になつて、

私は同じ町で、ほとんど同様の経験をしたことになりました。

そういえば、広島市内にある広島女学院の少し東で、ある5月の早朝にも同様の経験をしました。学校のクラブ部活動の練習なのでしようか、ランニングをしている男子高生の一団が口々に「おはようございます」「おはようございます」と私に挨拶(あいさつ)して、息をはずませながら走って行きました。

広島に來住して、「風光る」という形容がびつたりの県内を歩いていると、随所でこのような楽しい出会いが数多くあります。またある時、現金が入った財布を紛失して、現代のことだからと諦(あきら)めていたところ、それを中国からの留学生が警察に届けてくださった(今年2月の話)など、うれしい経験をすることもたびたびです。

みなさんはこの広島で、どんな美しい経験をなさいましたか。ぜひお聞きかせいただきたいものです。



本の紹介

## 日々ごゆだん なきよう

「幸せを呼ぶ礼法入門」



第16代上田宗箇流家元  
上田宗岡  
(社)青少年育成広島県民会議会長／著  
角川書店／刊 1260円(税込み)

簡単な工夫で身に付く  
「しぐさ美人」入門書

武家茶道の所作は特に美しいといわれます。それは、一つ一つの所作が直線で構成されていることに起因するといわれています。また、直線で構成されていることにより、初心者でも真似しやすい、という利点もあります。

この武家茶道の所作の美しさ、凛(りん)としたしぐさを、簡単な工夫で身につけられるのが、本書の特徴です。「しぐさ美人」になるためのエッセンスがふんだんに詰まった二冊。(内容)

- 「ちよつと気をつけるだけでこんなに変わる!」  
…立ち姿／歩き方／座り方／お辞儀の仕方／手の動かし方
- 「コミュニケーション能力のある女性は美しい!」  
…挨拶／敬語／言葉づかい／目線の置き方／人との距離
- 「茶の湯で「ウツクシキ」精神に触れてみよう!」  
…ミニお茶会でお招きを／五節句／お茶やお菓子をいただく など

# 子どもの

# 「脳」の育ちと環境



## Profile

林 優子

(はやし ゆうこ)

県立広島大学 保健福祉学部  
作業療法学科教授

専門分野：小児神経学、小児リ  
ハビリテーション医学、発達障害

キーワード：発達障害の支援、  
療育、リハビリテーション

## 子育てに マニュアルはない

子どもを理解した丁寧な  
”手作りの子育て”を行えば、  
子どもは急速に良い方向に変わっていく  
ことを実感しています。

知の  
コーナー

急激な環境変化が  
子どもの「からだ」に影響

私たちは、人間本来の欲求である安全、快適、効率的な社会を求めて努力を重ね、発展してきました。医療の進歩や衛生状態の向上もその一つで、500g以下で生まれた赤ちゃんも助けることができ、乳児死亡率(1000人の出生のうち生後1年以内に亡くなる子どもの割合)が、昭和25年は60・1であったのに対して平成17年では2・8にまで減少しています。合計特殊出生率(一人の女性が一生の間に生むとされる子どもの数)はこの間3・65から1・26に減少し、日本は世界の中でも最も子どもを少なく生んで安心して育てることができる国になりました。

食生活も豊かになり、この50年間で平均身長は男性が7・6cm、女性が4・9cm、平均体重は男性が9・5kg、女性が4・1kgと、それぞれ増加しました。また、現在は肥満度20%以上の肥満傾向児が約1割を占め、子どもの生活習慣病の低年齢化が問題になっています。運動能力については、握力や50m走など瞬発的な力はあまり変化がありませんが、持久走は昭和50年代をピークに徐々に低下しています。

人の成長には遺伝の影響もありますが、遺伝情報は人類発生以来長い年月を経て徐々に変化するもので、数十年ではほとんど変化するものではありません。統計的な数値で比べることで、急激な環境の変化が、子どもたちの「からだ」の育ちに大きく影響を及ぼしていることが分かります<sup>1)</sup>。

## 「からだ」より著しい「脳」の変化

では、子どもたちの「脳」はどうでしょうか。人の脳の発育は、まず受精卵が急速に細胞分裂を繰り返すことから始まります。

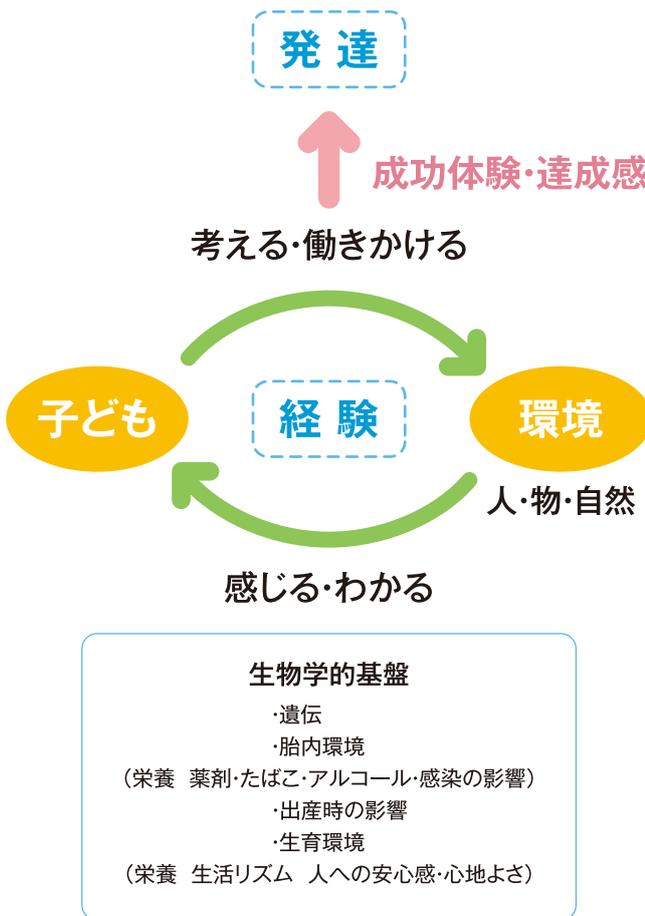
すでに8週までに主な器官が形成され、その後も継続して発達し、在胎40週で生まれる時にはほぼ脳の形は完成されています。大脳の重量は満期産で700g、1歳で1000gとなり、2歳以降は増加率が減少し、ゆるやかに成人の1300gに近づきます。ミクロでは、父母から受け継いだ遺伝情報をもとに各種の神経細胞が生成され、脳のそれぞれの機能の場所に配置されますが、その機能を発揮するためには神経細胞のネットワークを形成していくことが重要です。生後1歳までが重量・質ともに急激に変化する時期で、その後も生涯にわたってさまざまな環境との相互関係の中で脳は成熟を続けます。

人はほかの動物に比べて未熟児の状態生まれ、1年間でほぼ完成するといわれています。生まれた直後の赤ちゃんは、泣いてお乳を飲んでわずかに手足を動かすことしかできませんが、1歳の誕生日には、伝つて歩き、喃(なん)語でお話ができ、大人とほぼ同じものが食べられるようになっていきます。人の子どもが未熟な状態で生まれるのは、頭が大きくなると母の産道を通り抜けられなくなるからといわれています。

子どもの「脳」は、私たちが享受している現代社会の影響を常に敏感に受けて育っていますので、「からだ」よりさらに変化が著しいと考えられます。

**子どもを理解した”手作りの子育て”を**

こどもの「脳」の育ちは、まず土台の「生物学的基盤」が安定することが大切です(図)。その上で、子どもと自然や社会という環境との相互作用である「経験」が積み重なり、成功体験・達成感として受け止めることにより促進されていきます。



図：子どもは生物学的基盤の上で環境との相互作用を経験して発達する

「考える・働きかける」とは自らの意志で活動することで、「感じる・わかる」とは視覚・聴覚・触覚で感じるだけでなく、体全体の動きを感じる前庭覚や筋肉や関節を感じる固有受容覚からの情報の受信もあります。現代社会は、安全重視のために子どもの屋外での活動が制限され、テレビやゲームのような視覚中心の実体験を伴わない情報が多く氾濫（はんらん）しています。

また、機械化が進み、コンビニエンスストアが24時間営業し、便利・快適・効率な生活となり、我慢したり待ったりすることが少なくなってきました。特定の親の育て方だけが問題ではなく、多くの子どもたちが経験不足で学びにくい状況があることを理解する必要があります。そのような状況の中で生物学的基盤の弱い子どもが、特にうまく成長することが難しくなり、集中できない・友だちと仲良くできないなどの問題を起こしてきます。

私は小児科医で、大学の附属診療センターで主に子どもの発達相談を行っており、多くの保護者が子育てに悩んで来院されています。子どもは機械のように勝手にマニュアル通りに

育つものではありません。毎日の生育環境を安定させ、子どもを理解した丁寧な「手作りの子育て」を行うことにより、問題児だと思われればかりいたり、失敗ばかりで自信がなくなったりしていた子どもも、急速にいきいきして良い方向に変わっていくことを実感しています。

### 大切な土台作りは おなかの中から

土台作りは、お母さんのおなかの中にいる時から配慮が必要です。現在、喫煙や過度のアルコール摂取、特定の薬剤や感染症による有害作用が証明されています。お母さんのストレス、栄養の偏り、食品の添加物などの影響も懸念されています。赤ちゃんの発育の栄養はすべて臍帯（さいたい）血からまかなわれま

すから、お母さんの健康状態や生活習慣が良好に保てるように社会全体で守っていく必要があります。

出生後から成人になるまでは、生育環境を整えることが基本となります。現在、生活習慣、特に食事<sup>2)</sup>と睡眠<sup>3)</sup>の重要性が強調され

るようになりました。脳は活動するため成長するために、多くのエネルギーを消費します。そのエネルギーを供給するためには、食事内容の質と規則正しい食生活に気を配る必要があります。睡眠も時間だけでなく、自然の光に連動した生体リズムにあった良質な睡眠をとることが大切です。睡眠リズムの乱れは、集力が低下し脳の成長を妨げ、肥満や生活習慣病を起しやすいいわれています。

子どもに対するテレビやビデオなどのメディアの影響<sup>4)</sup>も警告されています。特に乳幼児や長時間の視聴は、運動不足や人とのコミュニケーション能力の低下をもたらし、自律神経の不安定化や感覚のアンバランスを生じます。最近の脳科学の研究では、感情を制御したり、未来を予見したり、論理的に物事を考えたりする脳の前頭前野が発達しにくくなることがわかってきました。さらに、飛行機や新幹線などの交通手段やインターネットや携帯電話などの通信手段の高速化が進み、社会全体が速く効率的になってきました。子どもたちは、学校や塾で一定時間内に結果を出すことを要求され、毎日時間に追われて忙しく生活しています<sup>5)</sup>。

もっとスピードを落とし、  
大人がじっくり子どもに付き合うことが求められています。



#### 参考図書

- 1) 日本子ども資料年鑑2007  
日本子ども家庭総合研究所編 KTC中央出版 2007年
- 2) その食事ではキレル子になる  
鈴木雅子 河出書房新社 1998年
- 3) 『早起き』は生きる力!  
蔭山英男 神山潤 瀬川昌也 晶文社 2007年
- 4) 「こどもとメディア」  
小児科医のためのハンドブック 日本小児科医会 2007年
- 5) 「多動性障害」児  
榊原洋一 講談社 2000年

漫然と現代社会に流されるのではなく、子どもの「脳」の育ちと環境の関係を理解し、もう一度原点に帰って、保護者や地域の大人が協力して真剣に子育てをすることが、今緊急の課題と考えます。土台を整え、子どもの「考える・働きかける」と「感じる・わかる」を適切に循環させ、本当に自分のものとして経験を積み上げるために、もっとスピードを落とし、大人がじっくり子どもに付き合うことが求められています。

# 思春期の若者

## の理解と対応



### 思春期とは

「思春期」には誰もが感じる懐かしい響きがあります。細い手足が伸びて、だんだんと丸みを帯び、身長や体重が急激に増加して、「可愛い子どもだった〇〇ちゃん」が別人のように……となりま。す。「子どもらしい」から「大人のよう」に「へと体つきや容貌(ようぼう)が変わっていくことを思春期発育といいます。このように第二次性徴がはつきりしてくるのがこの時期の特徴といえます。このことから、思春期にある若者には身体像が変化していくことを、どのように受容するかが大きな課題であることはいままでもなく、人口に膾炙(かいしゃ)・広く人々に知れ渡(わた)っていることです。

幼児の自己概念は鏡に映る自分の顔を意識する身体視覚像に始まり、自分と他者とを比べる傾向が生じることから自己概念が形成されるといわれています。つまり、幼児期に形成される自己認識は視覚的・感覚的なものだということがわかります。これが出発点となつて、自己認識のあり方は、自己に関する認知が有機的に統合された自己概念へ、さらにそれに対する評価や価値づけとなる自己評価、自尊感情へと発達していきます。児童期を過ぎ、思春期から青年期の自己認識のあり方は1つの節目を迎えるのです。



#### Profile

藏本 美代子

(くらもと みよこ)

県立広島大学 保健福祉学部  
看護学科教授

専門分野：母性看護学、助産学  
キーワード：思春期、健康教育、  
ピアエデュケーション、ヘルス  
プロモーション、参加型教育

## 「生と性の

## 健康教室」

妊娠・出産・育児という  
次世代を育成するプロセスは  
そう簡単なことではないことを、  
しっかりと若者に伝えることは  
重要なことだと思えます。

思春期にある若者の理解は多面的で多元的でなければなりません。多面的というのは私たちが示している社会的な行動的側面をいろいろ読み解き、理解していくということです。また、多元的というのは、1つの行動的な現象がいろいろな原因や理由から成り立っていることを理解することです。そのためには、行動を表層から深層へと深めながら理解することが必要になります。

思春期にある若者は個性と個性の出会いによって友情をつくり上げ、青年期の一歩前の思春期の人間関係では同性の世界において仲間をつくり、その中で自分を創(つく)ったり、集団の生活を行ったりする時期として、サリバンは仲間経験と名づけています。思春期から青年期における異性への目覚めは、この仲間経験の時期を経ていくとも記されています。

### 思春期の若者に伝わる 「生と性の健康教室」

十代の若者の妊娠・出産の場面に出合う時、感じる思いがあります。私たち周りの大人たちは、親になる彼女そして彼に、「十代の若者が子どもを育てるといふことは大変な課題を背負うことだ」ということを、十分に話し伝えただろうかということ。また、「若くて

もいじゃない」「私たちがサポートするから」など、妊娠・出産を認めるのであれば最後まで支援する覚悟をしているのだろうかということです。

すなわち、周りのサポート者の役割は、親の代替として子どもを育てるのではなく、彼女が子育てを通して親になることを支援することだと考えるからです。妊娠・出産・育児という次世代を育成するプロセスはそう簡単なことではないことを、しっかりと若者に伝えることは重要なことだと思います。

思春期の身体的変化は時間の経過とともに訪れる自然的変化であります。子どもの心から大人になることは放っておいても習得できるものではありません。子どもから大人になるといふ身体的変化とともに「自分は何をなすべきか」「私は何をしなければならないのか」に象徴される心の再編成の課題にも取り組まないといけないからです。

思春期の身体的変化を良き変化と受け止めて、変わりゆく自分を大切にすること、時には自己規制の行動の選択もすることが、アイデンティティの確立につながっていくのだということ私たちが知っています。

私は、平成15年から高校に出向いて、高校2年生に「生と性の健康教室」を行っています。思春期にある若者が、身体的変化をしっかりと

と受け止めて、自分と向き合うことはとても大切なことと考えているからです。この健康教室は、従来の講義形式ではなく学習の主体となる高校生がわかる、高校生に伝わる方法にしたいと考えました。

それは、高校生と年齢の近い健康志向を持つ大学生が、「生と性の健康教室」の活動に参加したいと自主的に集まり、学習会を開いて性についていろいろと学び、指導案や教材を作つて準備をします。「生と性の健康教室」では、「大切にしよう 生と性」というテーマで、高校生と大学生と一緒に学習していきます。



健康教室の展開は、「妊娠したかもしれない…」と不安をもつ高校生のナオ、親友のジュン子、ナオのボーイフレンドで高校生のミツルの3人が登場し、性に関するいろいろな知識や情報を学びながら問題を解決していくというストーリーで進みます。高校生に参加してもらう学習であることからグループワークの時間も多くして、例えば「今、あなたは好きな人と一緒にいます。何をしたいですか」という場面を設定して、1分間でそれぞれ自分の考えを書いてもらい、その結果をグループの中で共有し、その後クラス全体で共有します。1つの場面設定においても、多様な考えがあること、正解などないことなどを知るとともに、自分の考えを相手に伝えること、相手の考えを知ることの大切さを学びます。

日本の村落共同体には、大人の秩序組織とは別に若者グループがありました。薩摩の郷中制度が有名です。「大人の言うことは煙たいが、隣のお兄ちゃんの言うことはよく聞く」ということだと思えます。知識も経験も豊富な教員より、年齢の近い者からの情報の方が説得力を持っているということです。それは、彼らが時代と文化を共有しているからです。

彼らの発する情報が時代をとみに呼吸するという力を持っており、はるかに彼らを動かすということでした。

### 「生と性の健康教室」の反応から見えてくるもの

平成18年には、継続して行っている高校と新規の高校の11クラス(367名)に「生と性の健康教室」を行いました。その結果、10点満点の満足度評価では、継続校は9・1点、新規校は8・4点であり、とても高い評価をしたことがわかりました。

健康教室を評価する20項目からなる指標調査を行ったところ、男子と女子の性別比較では、全体に大きな違いはありませんでしたが、男子は「健康教室」を受講して知識や情報を得たことの評価に、女子は「健康教室」を受講したことを価値つけた評価に有意差があることがわかりました。

ところが学校別比較では、継続校が19項目において有意に肯定的な評価をしていることがわかりました。継続することの大切さを改めて教えられる結果となりました。20項目の

指標間の相関性をみたところ、いずれの高校にも相関性のあったことが確認できたのですが、新規校では男子も女子もすべての指標間に高い相関性のあることがわかりました。それは、ちょうど投石による水面に広がる波紋のように、「生と性の健康教室」を受講した高校生間に大きな刺激が広がったことがわかりました。

#### 引用・参考文献

- ・ 鎌幹八郎：青年期の多面性とイニシエーション、臨床心理学、2-6、2002。
- ・ 鎌幹八郎：アイデンティティとライフサイクル論、ナカニシヤ出版、2002。
- ・ ヴィゴツキー・柴田義松他訳：思春期の心理学、新読書社、2004。
- ・ 蔵本美代子：世羅高等学校におけるピアエデュケーションによる「生と性の健康教室」実施報告書、2007。

## 「生と性の健康教室」を受講した 高校生の間に大きな刺激が広がったことがわかりました。



## P o i n t

### ●研究内容

- ・健康志向を持つ大学生が高校生に対して「生と性の健康教室」をピアエデュケーション(仲間教育)の方法で行い、その効果を検証
- ・「生と性の健康教室」を実施するプロセスは計画・実施・評価としており、実施することで次の課題を抽出し、次の計画に反映させる実践的アプローチを実施
- ・学校保健と地域保健と連携を取りながら、高校生の健康に対する意識やQOLの向上を目指し活動
- ・高校生が参加する健康教室を目指し、その方法を検証

### ●期待される成果と応用

- ・高校生の生と性の健康について、いろいろな情報があふれる中で、高校生自身が判断する能力が必

要とされている実情を踏まえ、高校生に身近な大学生による仲間教育の方法で情報や知識の提供とともに学習する方法で行うことは効果が期待できる

・健康志向を持つ大学生は、将来専門職者として社会的活動を担うことが期待される。高校生へ健康教育を実施するという明確な目標のもと、実践能力を開発するプログラムにより経験を重ねることで、個別性、協調性、創造性などを培うとともに、実践に向けて協調性、連携性、責任性を実感しながら体得していく。実践を通して実践能力を高めることが期待できる

・学校保健と地域保健が連携を取りながら、思春期の健康教育を意見交換しながら協働することは地域づくりにつながることを期待できる

# フランスの子育て事情



写真=左から2番目が都留さん

Profile

都留 民子

(つる たみこ)

県立広島大学 保健福祉学部  
人間福祉学科教授

専門分野：社会政策、社会保障  
キーワード：貧困、失業、排除、  
福祉国家、フランス、社会保障、  
公的扶助

日本の少子化を克服するためには、  
「家族」という社会慣習を変えてきたフランス人の  
エネルギーに大いに注目したほうが良い。

## ヨーロッパの高い出生率

知の  
コーナー



## 高い出生率 その秘密は…

多くの日本人視察団が、その高い出生率（1人の女性が一生に生む子どもの数は2人。ヨーロッパでは第1位）の秘密を探ろうと、フランスを訪れているそうです。しかし『フランス父親事情』などの著作のある、滞仏20年の浅野素女さんは「いくらフランスで保育園を視察しても、社会の構造そのものが違うという点を理解しないと…」「：政府の子育て支援策とか、保育形態の多様性とか、いろいろご託を並べることはできるのだけど、問題はもともと根本的なところにある」と苦言を呈しています。そして、浅野さんの結論は「要は、仕事の仕方が人間的だつてことです！」（日仏女性センター会報、No.90、2007年）。

そう、フランスでは週35時間制で、残業を含めて上限は39時間、有給休暇は5週間（3週間は連続取得の「義務」あり）、育児休業は最大3年など…。浅野さんは、男性も余裕を持つて子育てをしている状況を記しているのですが、恵まれた労働条件と父親の関与が後押しをしているので、出産・子育てのために仕事を辞める女性はマイノリティ（少数派）です。3歳未満児の子ども1人という母親の労働力率は9割、末子が3歳未満で2子の母親では7割、同じく3人以上でも5割です。

母子保健・児童福祉・社会保障などの子育

て支援は「家族政策」と呼ばれ、多くのサービス（10数種の家族手当、児童手当、2歳までの保育所と保育ママ制度、小学校に付設されている幼稚園、働いていないお母さんの子どもも預けられる一時託児所、さらに乳幼児のホームヘルプなど）が提供されています。

しかし、肝心なのは「多様性」ではなく、どのようなサービスを親が選択しても「お金がかからない」ということです。医療は無料、私学を含めて幼稚園から大学まで教育はほぼ無償、学習塾もない。そして子育てサービスは公的なサービスなので、子育てを「市場」と考える営利産業は育ちません。

### 増加する

### 「非婚家族」「再構成家族」

「多様性」といえば、家族政策では家族モデルを「実の両親と子ども」としていないこと、さらに、結婚を経ないで形成された「非婚家族」の子どもたちが多数派になりつつあることも忘れるわけにはいきません。

まず、後者についてみれば、2007年に誕生した子どものうち婚外子が50・5%と、とうとう半数を超えたそうです。フランスの家族システムは、カトリックの伝統から保守的なことで有名でしたが、社会運動が高揚した1968年以降は、非婚のユニオン・リブール（自由関係）のカップルが増加していきま

した。この非婚化が大きな契機になって、子どもはすべて平等という建前が実体化したのです。非婚家族であっても、国籍が違っていても、さらには不法移民の子どもであっても、家族政策においては平等に「保護」されるようになりました。

家族形態をみると、公式統計では非婚家族と既婚家族の分類はなくなりました。そして子ども（20歳未満）のいる家族において、実の両親と子どもが暮らしている「古典的家族」がまだ7割と多数派なのですが、顕著に増加しているのは、離婚・離別後に再婚・同棲したカップルとその子どもという「再構成家族」です。

「再構成家族」は70万世帯、1割を占めるようになり、そこで暮らしている子どもたちは200万人を超えました。フランスの人口は日本の半分ですので、この数の持つ意味は大きいことがお分かりいただけるでしょう。

昨年5月に大統領になったサルコジ氏は、その離婚が日本のマスコミも騒がせましたが、前夫人とはそれぞれの連れ子4人と、2人の間に誕生した子ども1人の7人の「再構成家族」でした。この2月には、1人の子連れのシングルマザーと「再構成家族」となりました。ちなみに、サルコジ氏と大統領選を争ったロワイヤル女史は、パートナーとの間に4人の子どもがいた非婚家族でした。彼らも最近離別して、元パートナーは恋人と近いうちに「再構成家族」を形成するだろうと言われています。

なお「ひとり親家族」（母子が8割）は2割ですが、その数は横ばい状況です。そして「ひとり親家族」は固定的な家族ではなく、「再構成家族」に至るまでの過渡的・一時的な家族と言われるようになりました。社会学者たちは「再構成家族」において、そして「ひとり親家族」から「再構成家族」へのプロセスの中で、少なくない子どもが生まれて、「多子家族（子ども3人以上）」を形成していると指摘しています。日本の少子化を克服するためには、子育て支援策だけでなく、自分の心・「愛」に正直に、「家族」という社会慣習を変えてきたフランス人のエネルギーに大いに注目したほうが良いかもしれませんよ。

## 離れても「契約」で守る 子育ての義務

変革のエネルギーというのは、子どもものいるケースの離婚・離別、そして再婚・同せいに不可欠で、決して楽ではないと言えます。良好な労働条件や家族政策があっても、フランスの実

の親の義務は重く、別れて暮らしていても子育ての義務から免れることはできません。

離別の時は、子どもをどちらが引き取るかだけでなく、別れて暮らす親（多くは父親）が支払う養育費の額や支払い方法、子どもとの面接の頻度・交流の内容なども、「契約」しなければなりません。「契約」が破られた場合で言うと、例えば養育費が不払いの場合には司法手続きをもって「児童判事」（日本でいう家庭裁判所判事）が登場して、不払いの親の給料を差し押えもします。元夫の暴力などの理由から母親の力では難しい場合、社会保障機関・家族手当金庫が代行して、父親からの養育費取り立ての司法手続きをします。なお、司法手続き中は、金庫が養育費代わりの「家族援助手当」という名の家族手当を支給し、後で、金庫は不払いの親から手当の費用を回収するのです。なお、父親に支払う経済力がないことが証明されると、子どもが18歳になるまで、引き続き「家族援助手当」が支給されます。

離婚した友人の1人（男性）は、3人の子どもたちに月々の養育費を支払い、子どもたち

が週に何日か泊まりにきたり、学校への送迎に駆り出されたり（小学校卒業までの送迎は親の義務）、それに夏休みなどには旅行にも連れて行かなければなりません。そして同時に新しい恋人のシングルマザーとの間にも最近子どもができて、その子育てにも毎日追われています。彼と恋人は「将来は同居するつもりです。養育費の支払いが後10年あるし、彼女（恋人）がシングルマザーだと家族手当が多いし、

たくさん権利がついているから」と、経済的な事情から「再構成家族」の形成にはまだ至っていません。なお、友人の元妻や恋人の例の通り、フランスの母子世帯を、日本のように一人の母親が経済的・心身的にも全責任を課せられ、子どもを育てている家族をイメージしてはいけません。

## 親との離別を経験した 子どもの心理

さて、別れて暮らす（一定の）父親たちは、もつと子育てに携わりたいと言います。彼ら父親たちはNPOを結成して「なぜ、母親が子育てに適しているかとみなして、子どもを母親に渡すのか」、「母親が子どもたちとの面接を妨げる」と活発な活動を展開しています。彼らの圧力で親権の協同性、つまり実の父親の権利強化という法改正も実現しました。

**フランスの実際の親の義務は重く、  
別れて暮らしていても  
子育ての義務から免れることはできません。**



「離れて暮らしていてもパパは大好き」(本文とは直接関係ありません)

り親家族」「再構成家族」の子どもの精神的  
心理的ケアがあげられています。ところが、  
子どもたちは高校を出たり大学生になった  
りすると恋人と同せいを始め、中には早々と  
子どもをも持つ人も…。私が見る限り、親と  
同じように、いえそれ以上に「自由」に暮ら  
し始めます。

## 本当にたくましい！ フランスの親たち

ともあれ、子どもへの責任は果たしながら、  
自身の恋愛や生活を謳歌(おうか)するのが、  
フランスの親たちです。本当にたくましい！  
そういえば、「うんざりだ」「疲れた」という  
フランス語はありますが、日本語の「めんど  
くさい」のニュアンスに相当する表現はありま  
せん。そして、わが国では育児が大変という  
のは常識になっていますが、子育て中のフラン  
スの知人から「ベビーシッター探しが大変」(乳  
児保育所は決定的に不足しています)、「成  
績が悪いのよ」(フランスはつめこみ教育で超  
学歴社会)など具体的な悩みは聞きますが、  
子育てそのものがシンドイという声を聞いた  
ことはありません。

もちろん親との離別を経験した「ひとり親  
家族」、その後「再構成家族」で生活するよう  
になった子どもの心理は複雑です。父母の別  
離をどのように子どもに語るか、別れて暮ら  
す子どもへどう接するか。「再構成家族」での  
新しい「親」あるいは(親の)パートナーと子ど  
もの関係とか「義兄弟姉妹」関係の築き方(と

くに思春期での性の問題)などの子育て本が、  
ズラッと本屋に並んでいます。前述の友人に  
言わせれば「女の子はものすごくたくましい  
が、男の子は精神的にもろい」。

スクール・ソーシャルワーカー、さらには自  
治体児童福祉局の児童精神分析医や児童ソ  
ーシャルワーカーの仕事の一つとして、「ひと

# 学童期のメンタルヘルス に関する調査結果

知の  
コーナー

4

今の子どもたちは…

子どもが学童期（小学生）以上になると、一  
通りのことは自分でできるようになり、育児は  
ひと段落。しかし、今度は進路や勉強のこと、友  
人関係、異性との付き合いなどが気になります。

子どもは、幼い時とは異なり、学校や地域で経験  
したことや感じたことすべてを自分から親に報告  
することは減っていきます。また、親から離れ、一人  
あるいは友達と行動するようになり、親は子ども  
の気持ちや行動を把握しにくくなっています。

“子どものことがわからない”“子どもにどう  
かかわっていいかわからない”と嘆き戸惑う保護  
者の方は少なくないでしょう。さらに、最近では引  
きこもりや不登校、いじめ、自殺、子どもの犯罪  
などがマス・メディアで多く報道されるようにな  
りました。“いつか、うちの子ども…?”とさらに不  
安を募らせる保護者の方もおられるのではない  
でしょうか。しかし、保護者以上に不安や戸惑  
いを感じているのは子ども自身かもしれません。

子どもは、人間関係や行動範囲が広がるにつ  
れ、見知らぬ人・物事に遭遇していきます。また、  
失敗や人間関係上のトラブルなどに出遭い、これ  
らの事態を自分で乗り越えることで、社会で生き  
ていく力を獲得していくのです。その半面、どう  
対処したらいいか、どうなっていくのか見通しの持  
てない状況に緊張や不安を感じます。さらに、小  
学校高学年～中学生にかけ、思春期という身体  
面（第二性徴）・心理面に大きな変化が起きる  
時期に入ります。この大きな変化に子どもた  
ちは戸惑いと不安、焦燥感を募らせます。

## 子どもに とって家族は…

### 子どもに とって家族は…

「心のよりどころになる場所だ」  
「気持ちをよく理解してくれる」と  
回答した割合は、小学校高学年に  
なるほど減少しています。



Profile

西村 いづみ

(にしむら いづみ)

県立広島大学 保健福祉学部  
人間福祉学科助教

専門分野：子ども家庭福祉、  
障害児支援

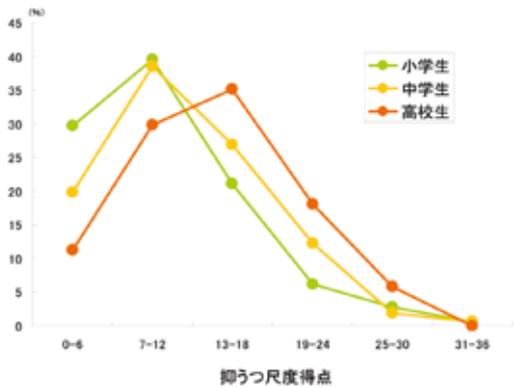
キーワード：心の健康

そして、今の子どもたちは多忙です。三原市の小・中学生を対象とした生活実態調査(2006)では、多くの子どもたちが放課後や休日には学習塾、部活、習い事などに追われている実態が明らかになりました。また、その他の過ごし方として、テレビやビデオを見て過ごす子どもが多いことが示されました。

多忙なスケジュールと情報にあふれた環境のもと、子どもたちの心の健康はどのような状況なのでしょう。また、心の健康の維持・向上に、身近な大人はどのような働きかけをすることが大切なのでしょう。

## 子どもの精神的健康(メンタル・ヘルス)に関する調査から見えてきたこと

2007年11月、三原市の公立学校に通う小学5年生365人、中学2年生354人、

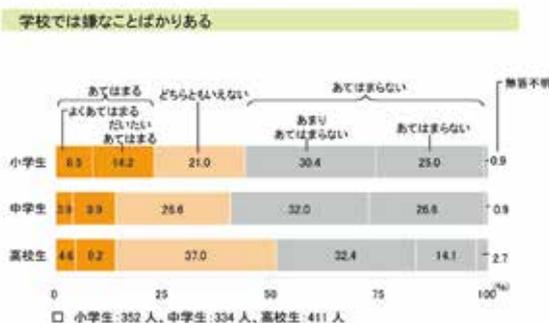
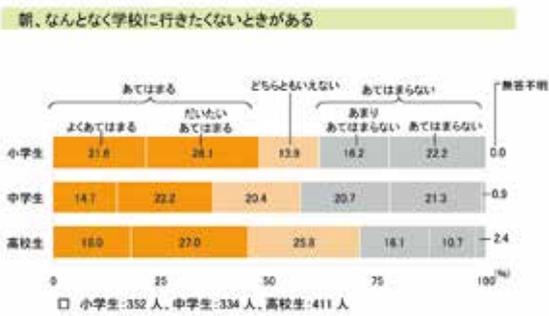
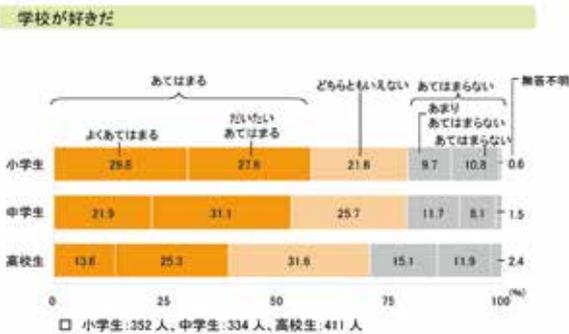


小学生:326人、中学生:327人、高校生:393人

図1. 子ども版自己記入式抑うつ尺度(CDSS)得点別人数の割合

※18の各質問項目について、3段階評価(「いつもそうだ」「ときどきそうだ」「そんなことはない」)を行い、2点、1点、0点(質問によっては0点、1点、2点)と点数化。最高得点は36点

### ●学校について(図2~4)



## 子どもにとって学校は

高校2年生435人を対象に「子どもの精神的健康(メンタル・ヘルス)に関する調査」を実施しました。これは、子どもの心の健康度や、心の健康に影響を与えると思われる家庭や学校の見方などを問う項目で構成された調査です。ここで、調査結果の一部をご紹介します。

まず、心の健康度に関して、バールソン(1981)の子ども版自己記入式抑うつ尺度(CDSS:日本語版作成、村田豊久他(1996))を用いました。抑うつ尺度の得点別に各学年の人数の割合を比べたところ、高学年になるほど、抑うつ尺度の得点の高い子どもの割合が高いことがわかりました。また、小学生においても同様の場合、抑うつ傾向の高い子どもがいることが認められます。

(※図1子ども版自己記入式抑うつ尺度(CDSS)得点別人数の割合を参照)

子どもたちは多くの時間、学校で生活します。勉強やクラブ活動、教師やクラスメートとの交流などの中で、子どもたちは学校をどのように感じているのでしょうか。アンケートから、「学校が好き」と答えている割合は、学年が上がるにつれて減少しています。一方、「どちらともいえない」と回答した割合は高学年になるほど増えています。

また、他の質問に対しても「どちらともいえない」というあいまいな回答の割合は、学年が上がるにつれて高くなっていました。後述の家庭に関する質問でも「どちらかといえばあてはまる」というあいまいな回答は高学年ほど多くなっていきます。単純に「そう」と言えず、物事を多方面から捉える力が育ってきている表れなのかもしれません。

そのほか、「嫌なことばかりある」に小学生が最も高い割合で「あてはまる」と回答したことが気になります。

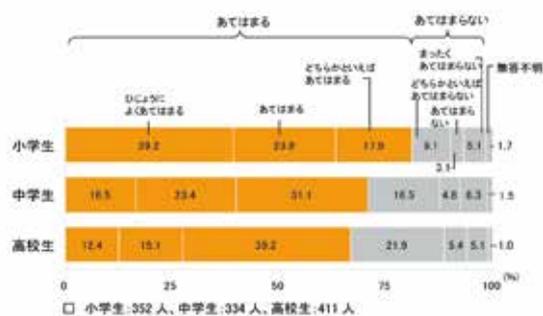
(※図2~4学校についてを参照)

親は子どもを見守り、  
求められればいつでも子どもとも向き合って  
話を聞く・手伝うという姿勢を、  
各家族のスタイルで伝えていくことが大切

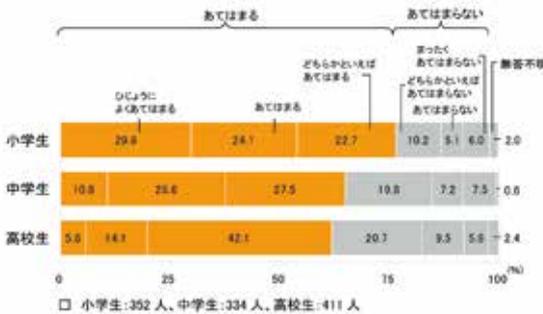


●家族(家庭)について(図5、6)

心のよりどころにできる場所



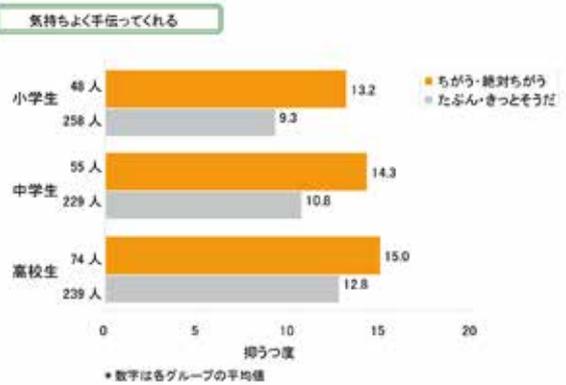
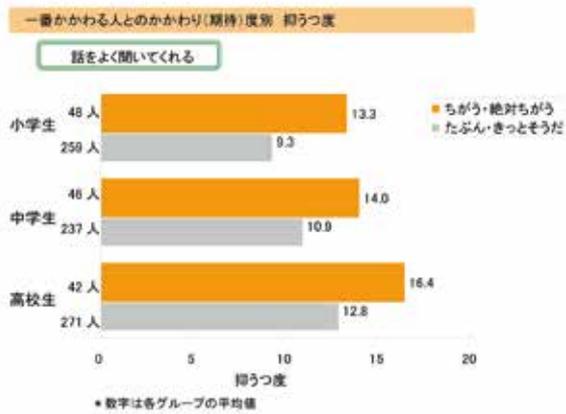
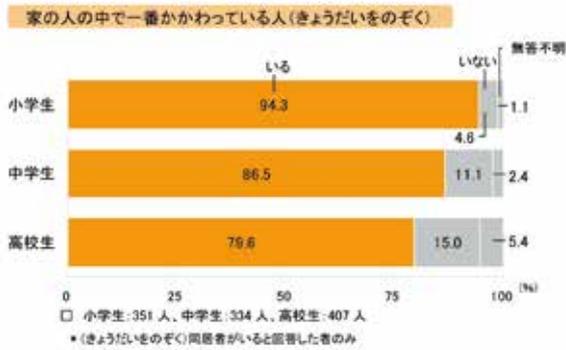
気持ちをよく理解してくれている



(※図5、6:家族(家庭)についてを参照)

家庭は…  
ストレスの多い社会環境の中で、子どもにとつて家庭は安らぎの場になっているのでしょうか。  
いずれの学年も6割以上が「心のよりどころになる場所だ」「(家族は)気持ちをよく理解してくれる」と回答しています。一方で、「あてはまらない」と回答している子どももいるのは気になります。また、「心のよりどころになる場所だ」「(家族は)気持ちをよく理解してくれる」と回答した割合は、高学年になると減少しています。

●家族(家庭)について(図7~9)



※全体の図表に対する注  
 ■2008年2月29日現在の分析結果です。質問文は一部省略している場合があります。  
 ■図中の数字は小数点第2位を四捨五入した関係で、合計数が100%にならない場合があります。

「(きょうだいを除く)家の人の中で一番かかわっている人」について、高学年ほど、「誰もいない」と回答した割合が増えています。さらに、「一番かかわっている人」が「いる」「子どもでも、その人が「話をよく聞いてくれる」「気持ちよく手伝てくれる」といったかわりをしてくれる(あるいは期待できる)か否かによって、心の健康度に違いがありました。この結果は、子どもの心の健康維持・向上に、周囲の大人はただ頻繁にかかわればよいのではなく、そのかわり方がポイントになることを示していると考えられます。

春は進学、進級、転居など、子どもたちの環境が大きく変化する時期です。このような環境の変化も、子どもたちにとってストレスとなります。もちろん、子どもの性格や経験などによって、受け取るストレスの度合いや種類は異なります。また、ストレスにさらされた心身をやすらげる環境や周囲の働きかけがあれば、心の健康は回復することができます。

親は、新たな人・物事に向かっていく子どもを見守り、求められなくても子どもと向き合って話を聞く・手伝うという姿勢を、各家族のスタイルで伝えていくことが大切ではないでしょうか。

新学期を迎えて

毎月17日  
青少年の日

毎月第3日曜日  
家庭の日

11月1日  
ひろしま  
教育の日

## 会員加入のお願い

次世代を担う青少年が健やかに成長し、住みよい郷土を築いていくことは、県民すべての願いであり、責任です。

青少年育成広島県民会議では、県民の総意を結集し、青少年育成運動を幅広く展開しています。

そのため、県民のみならず県民活動の会員に加入していただくことで、直接・間接のご支援・ご協力をお願いするものです。

### ■賛助会員

会費/個人 年額1口 1,000円  
団体 年額1口 10,000円

### ■正会員

会費/個人 年額1口 3,000円  
団体 年額1口 5,000円

- 何口でも結構です。
- 機関紙「せとのあさ」をお送りします。
- 会費の納入方法などは、事務局までお問い合わせください。

銀行  
振込先

広島銀行県庁支店  
口座番号/(普通)233251  
口座名義/(社)青少年育成広島県民会議



広島県の青少年のマスコット  
ゆっぴー

「ゆっぴー」は、  
府中町の小学生が  
太陽とライオンをモデルに、  
“元気に明るく育つ  
青少年”をイメージして  
デザインしました。

## はぐくむ Information

### 社団法人 青少年育成広島県民会議とは…

青少年育成県民運動の推進母体として、昭和41年の設立以来、次代を担う青少年の健全な育成を図ることを目的にさまざまな事業を行ってきました。

昨今の青少年をめぐる問題は極めて深刻であり、国、県、市町村の行政や青少年団体など関係機関と連携して、県民総ぐるみの育成運動に取り組んでいます。平成18年11月には創立40周年記念大会を開催して、さらなる青少年育成県民運動の推進に向けて取り組んでいます。

#### 〈概要〉

設 立 昭和41年12月7日  
法人格取得 平成2年10月21日  
事業規模 3257万7千円(平成19年度予算額)  
育成基金 5億円(平成3年度設立)  
会 長 上田宗岡(茶道上田宗箇流家元)

## 編集後記

多くの人に支えられながら、この雑誌はできました。本当にありがとうございました。

(細羽)

発刊までに、素敵な出会いや発見がありました。本誌が地域活動のヒントになりましたら幸いです。

(西村)

青少年に関する知識や実践活動が結びついて、育成活動の輪が広がることを願っています。

(出路)

(社)青少年育成広島県民会議

〒730-8511 広島市中区基町10-52  
広島県民活動課内  
TEL 082-513-2742  
FAX 082-511-2173  
<http://www.hiro-payd.or.jp>